

第6回小山町の教育のあり方調査研究委員会 議事録

- 1 開催日時 令和5年8月25日（金）午後2時30分開会
- 2 開催場所 小山町役場 大会議室
- 3 出席委員 武井敦史委員長、岩田祥吾副委員長、池谷弘委員、
田中清子委員、山口純委員、斎藤美栄委員、杉本奈々委員
臼井聖香委員
- 4 出席した事務局職員等
野木雄次教育次長、伊藤和彦学校教育課長
井上幹夫学校教育専門監、坂本竹人こども未来課長
中澤芳文学校教育課長補佐、池谷秀之こども未来課長補佐
湯山貴弘学校教育課副主任
- 5 会議次第
 - (1) 開 会
 - (2) 教育長あいさつ
 - (3) 委員長あいさつ
 - (4) 議 事
 - ア アンケートの結果(最終)について
 - イ こども園・小学校・中学校の今後も方向性について
(各委員からの発表・協議)
 - ウ その他
 - (5) 閉会
- 6 議事録

(1) 中澤学校教育課長補佐が開会を宣言した。

(2) 教育長あいさつ

教育長：今回の会で第6回になりますが、ここにいる皆さん、それぞれの立場からのご意見を伺いたいと改めて思っている。これから皆さんのご意見をいただくのですが、他人目線ではなく、ご自身の立場で率直な意見をいただければと思う。今日はよろしくお願いいたします。

(3) 委員長あいさつ

武井委員長：今回の会議は、報告書作成を考えると今日の議論が土台になると思う。先ほど教育長も言われたように皆さんから率直な意見を聞いておきたいと思う。その上で、次回以降に何ができるのかという案を考えていくことになる。そして、長期的な見通しを立てた上でどのような可能性があるかを考えていければ良い。逆に言うところここで考えられないと、恐らく次に考える機会はないと考えた方が良い。実現可能なところを一つ一つ押さえながら、頑張れるところは頑張るというようなことがこれから必要になると私は思っている。皆さん今日は山場になりますが、よろしくお願いいたします。

(4) 議事

武井委員長進行

(ア) アンケートの結果(最終)について

議事(ア)について伊藤学校教育課長が下記の通り説明した。

最終的に実施したアンケートについて、先日、郵送しました一般用以外は、前回の資料と変わっていませんので、一般用のみ説明させていただきます。

前回説明したとおり、アンケートの実施期間につきましては、6月19日(月)から6月30日(金)までの2週間で、一般町民については、無作為で抽出した18歳以上の500人、その他保護者などを合わせ、合計3,065人を対象としました。

一般用のアンケートをご覧ください。7月19日に全てアンケートの集計が完了したことに伴い、最終的な回収率、回答結果が記載されています。回答日の傾向ですが、グラフで現れているとおり、配り始めた直後が多く、その後はなだらかな傾向です。なお、一般用のグラフが、7月以降が伸びているは、紙の回答を入力し始めたタイミングによるものですのでご了承ください。

次に回答率です。一般の方については最終的に500件中160件で回答率32%でした。ちなみに、こども園の保護者につきましては、343件中74件で22%、小学生の保護者は890件中217件で24%、中学生の保護者は435件中86件で20%、児童生徒につきましては、723件中622件の86%、教職員保育教諭等につきましては、174件中106件で61%でありました。全体の合計では3,065件中1,265件で41%となっております。

資料2をお願いします。前回の資料では、割合が縦の計算でしたが、横の計算とし地区ごとに整理しています。

こども園の保護者に対し、問3の1学級の人数では、どこの地区においても10-20人が良いと答えた方が多く、全体では74件中60件で約81%を占めております。

問5の園の統合につきましては、成美地区に限り望ましいとやや望ましいが多かったのに対し、その他の地区ではあまり望ましくないと、

望ましくないが多いという結果がでております。

問7の小学校の統合につきましては、園同様、成美地区が望ましいとやや望ましいがそれぞれ約43%ずつを占める結果となりました。他の地区につきましては、あまり望ましくないと望ましくないが多かった一方、須走に限りやや望ましいが50%と半数といった状態でした。

次に、小学生の保護者についてです。

問3の適当と思う学級数については、足柄地区以外では2学級が多く、足柄地区では1学級という意見が68.8%と最も多い回答でした。

問5の小学校の統合につきましては、全体的に意見が分かれており、全体で最も多かったのが、あまり望ましくないで39.6%、最も少なかったのが望ましいで12.4%という結果でした。

問7の中学校の統合についても、全体的に意見が分かれており、全体で最も多かったのが、あまり望ましくないで39.2%、最も少なかったのが望ましいで10.6%という結果でした。

次に中学生の保護者についてであります。

問3の適当と思う学級数については、小学生の保護者と同様に2学級という意見が最も多く全体で86件中55件、64%を占めています。

足柄地区におきましては、3学級以上という意見が多い状況でした。

問5の中学校の統合につきましては、やはり全体的に意見が分かれており、全体で最も多い、あまり望ましくないが39.5%、最も少ない望ましいが15.1%という結果です。

次に、5～6年生の児童と中学生についてであります。

問3のクラス数についての内、5・6年生の意見は、今のままという意見が圧倒的に多く全体で263件中200件と76%です。中学生も、今のままという意見が圧倒的に多く全体で359件中286件と約80%です。

最後に、問4の学校の統合についてです。5・6年生の意見は、統合した方が良いが88件(33.5%)やや良いが71件(27%)、あまり良くないが58件(22.1%)、良くないが46件(17.5%)と全体的に意見が分かれました。

中学生の意見は、統合した方が良いが98件(27.3%)やや良いが99件(27.6%)、あまり良くないが93件(25.1%)、良くないが69件(19.2%)とやはり全体的に意見が分かれました。

その他の意見の主なものは記載のとおり及び資料3のとおりです。

説明は以上です。

委員長；冒頭でもお話しましたが、各委員の皆さんからそれぞれ意見をいただきたいと思います。

田中委員：これまでの自分の勤務校を振り返った時に、大規模校では、たくさんの方が集まるので、小さいながらもきちんとした社会が成り立つことを実感したし、リーダーを育てるという面でも切磋琢磨できる環境は大事だと感じた。逆に、小規模校では人間関係が固定しがちな課題はあるが、その中で落ち着いた教育が出来る事や、少人数がゆえに教師

の目が行き届くというメリットを感じた。どちらもメリット・デメリットはあるが、将来的な子供の数の減少推移を考えると、現状維持のままではなく、学校統廃合についてしっかり考える段階にきていると思う。

山口委員：現時点での思いは、もう現状維持ではなく、ある程度再編というか、中規模化というものを話し合い、10年後の将来を見据えていく必要があると思う。そのためには地域の方と対話する場をつくっていく必要があると感じた。また、環境変化が少ないと思考や価値観が、教師や子供も広がり生まれにくい状況になってしまっている。学校の中規模化していくことが難しい場合は、特色を出すという意味で、例えばイエナプラン（異年齢学習集団）を取り入れた学校とか、小規模校として残すのであれば、何か特色というか良さを感じられるようにする必要があると思う。他にも、例えば分校のような形で、学校が1つになったとしても、幼児～2年生ぐらいまでを1つの施設にして、幼児教育施設のこども園も一体化にしてしまう形も考えてみた。

斎藤委員：公立園の魅力は何かを考えた時に、町内公立園は4園あるが、職員が異動しても同じように仕事ができるように、事務処理にしても、保育にしても、そういう情報を共有しながら、どこの園の先生たちも同じように対応できる、そんな保育を目指してきたことだと思う。この、どこの園に行っても同じ対応、同じ保育の目標に向かっていく方針が仮に統合する方向に向いたとして、保護者の理解や統合に対する不安の低減につながると感じた。また、アンケートの自由記述から様々な意見を読ませていただいた中で、自分たちのしている保育を、町民の皆さんに理解していただくことも必要なことだと改めて感じた。

佐藤先生：私が勤めている学校も統合問題を議論したが、保護者の方は、大体8割ぐらいの方が統合賛成意見で、地域の方は半々ぐらい、子供たちは若干統合の方が多という結果だった。では、その理由が何だったかということ、一番は人間関係の固定化が友達関係が広がらないことが、子供たちにとっても保護者の方にとっても一番大きな統合を望む理由だった。今、大学で小規模校の研究をしているが、小規模校にもメリットとデメリットがあると思う。メリットとしては、小さい集団の方が目が届くので、個別学習の面では最適であると考え。一方で、協働的な学びが大切にされたりだとか、答えのない問題に対して自分で課題を立てて、自分なりの解決を目指していくという中で、いろんな子供たちと協働したり、意見を擦り合わせたりとなると学習集団というのは必要になると思う。統合を選択するかどうかは別にして、統合しないとしても、やはり子供たちがいろんな考えと出会わせていくような仕掛けを作っていく必要はあると思う。

委員長：事務局からも意見をどうぞ

教育次長：小・中学校、それからこども園それぞれ規模の適正というのは子供たちの年齢や育ちに応じて、適正な規模を考えていかなければならないと思っている。小山町の中でも、それぞれの課題や、今置かれている現状を踏まえながら考えていけたらと思っている。

伊藤課長：意見というより、私自身の経験からの見解になるが、もう少しクラスが多い方がいいのかなとは思いますが、今の現状の小・中学校の児童生徒数からすると正直実現は厳しいという思いがある。

専門監：規模の適正を考えた時に、確かに子供の人数はあるが、それに対して教員の適正な人数はどうかとも考えられる。また、現状のまま子供の数が減少していく中で、それが統合ということで解決するのかわからないが、求められてる力というのは、自分の思いを伝えられたり、思いを受け止められる力と考えており、その力をのばせる環境が必要だと思う。

中澤補佐：子供の数の減少に伴い統合した際は、通学の面でも支障が生じる場合があると思うので、そのあたりの検討は絶対に必要だと思う。部活動について、昔と比較して練習量や活動レベルが低くなっている。勝利至上主義というわけではないが、どうやって勝つかをみんなで研究して練習することも教育の1つだと考える。そのためにも、ある程度の人数規模にして、部活動の意義を高めていければと思う。

湯山副主任：将来、大人になって社会に出る事を考えた時に、ある程度の人数の環境の中で切磋琢磨し合うことから学ぶことは必要だと思う。

池谷補佐：個人的な意見だが、アンケートの結果から見ても、するがおよまこども園の統合は避けられないという思いはある。統合に向けて課題はあるが、他の園も含め検討していく時期に入っていると思う。小学校の統合に関しては、特に小山町は地域感が強いところなので、地域の方の意見や理解を得ていく必要があると考える。

坂本課長：こども園に関して、現状1クラスに10人満たない園がある中で統合に向けて検討する必要性は感じている。令和5年度の出生数見込みは80人程度であり、この先も大きな回復は見込めない上、町内こども園6園でこの80人の奪い合いになると、例え園を統合して1園減らしたとしても、厳しい状態になると思う。小学校についても同様なのでしっかりと考えていきたい。

杉本委員：今後の方向性として、私の考えとしては事務局案④の「短期的に学校(園)配置を見直し、中規模化を図る」に近い。私自身、子育てをして感じることは、教育は環境がかなり影響するということ。小規模校だからと言って絶対に目が行き届くということではないし、言ってしまうと先生方のパッションにもよるところが大きいと思う。

臼井委員：今の娘の実態をみていると、小規模校での人間関係の固定化は悩むところで、可能であれば、大きな学校で切磋琢磨させてあげたいという思いがある。前回委員会時に「学校間交流」の話があったが、そういうことができる環境を作る必要はあるのかなと思う。

岩田委員：一番重要なのは子供たちであることは間違いないが、先生が生き生きと働けるような環境作りという視点も必要だと思う。また、他のクラスや他の学年との交流、他学校との交流、大人との交流等様々な人と人との交流を出来る様になっていければと思う。

池谷委員：アンケートの結果を見まして、全員の共感を得ることは非常に難しいなというのが率直な意見である。統合に関して、各学区の地域には住民との伝統や歴史があり、地域活性の源にもなっているのでそのあたりは残していきたい。学校間交流も町内全体的に集まって、例えば環境学習を通じて地域の良さを深めることもできると思う。また、現状、先生方は非常に多忙であるため、子供に寄り添う時間を作り出していく必要があると思う。

委員長：皆さんから出していただいた意見から、ある程度共通項は出てきたと思う。1つは人間関係の固定化、小規模だと経験が限定されることについては対応していく必要がある。もう1つは学校間交流の活用を検討していくこと。それから、小規模校のメリットである、細かいところに目が行き届く事の良さを残していけるような手立ては必要であると思う。次回の委員会時には、例えば、素案みたいなものを私も含めて考え、意見を出してもらいたい。その時に案があったとしても、「そういう案があればいいね」だと実現することはないので、どうやって次のステップに動いていく必要があるか考えていかなければならない。つまり、理想像までにどのような過程を経て到達するかロードマップ的なものがこの報告書の中に書かれる必要がある。皆さんからいただいた率直な意見が結論に直結するものではないが、全てしっかり考えなければならぬことなので、次回以降検討していければと思う。それではまず、こども園ついて検討していこうと思う。アンケートの結果から、特にするがおやまこども園は子供・保護者の意見を聞いても8割近くが統合するのが望ましいと方向性が出ている。なので、するがおやまこども園は統合を少なくとも検討をするという記載は必要だと私は思う。とりあえず第1ステップとしては、するがおやまこども園、その他園については「要検討」とする。しかし「要検討」ではあるけれども直ちに動くという記載にするには、時期尚早と考える。そのぐらいの感じかなと思っている。

斎藤委員：今週に入り、来年度の入園申し込みが始まったが、するがおやまこども園に関しては申込数が少ない。保育を成り立たせる集団生活としては、ある程度の人数がいて集団生活の魅力を伝えるようにするには、今の人数では難しくなっていると感じる。

岩田委員：子供の0歳から5歳児までのそういった交流というのは非常に必要なことだと感じていて、それが出来なくなっているという現状なら、するがおよまこども園に関しては、早急に手を打った方がいい。

臼井委員：通園の面で、もし統合になった場合、車を所有していない方が困ることがない様に通園バスとか何らかの対応を考えていかないといけないと思う。

坂本課長：するがおよまこども園は園バスがあり、利用人数も少なくなっているので対応はできると思う。

委員長：わかりました。こども園に関しては、とりあえずそうした方向性をこの報告書に明記するという形で進めていきたいと思う。

では次に小・中学校について検討していく。明確にしておくべきことは、人間関係の固定化を克服するために、学校間合流の範囲を広げていくということは不可欠であろうと思う。しかし、その事により教員が多忙になってしまうのは良くないので、学校の働き方にも着目しながらそうしたことができる方策を模索したいと思う。それ以外に部活動の問題。これは、政策の情報を入れておくと、部活動はおそらく今から5年10年というスパンになると、地域のスポーツクラブに移行されることになる。つまり、学校統合するにせよしないにせよ、町単位で部活動を持つという形になっていくと思われる。

専門監：今の部活動の状況ですけども、小山町としては、地域移行の前段ぐらいになるかと思うが合同部活動に取り組んでいる。その背景として、子供の人数が減ってきていて、学校単独でチームを組めなくなったり、学校によってある部活動とない部活動があることがあげられる。今年度から野球部とサッカー部を合同部活動として始めており、今後は文化部にも広げていきたいと考えている。

委員長：分かりました。それ以外どうでしょうか。小中学校のあり方について今いただいた意見は、どれも非常に良い意見だと私は思っている。難しいのは、このアンケートの結果からすると、理想は2学級、しかし学校の配置は今のままでいいという事である。しかし、それは両立できないので、どういうふうに持っていくかを考えていかなければならない。少し中期的に見ると、学校の制度自体も分散型のシステムというか、同じところにいなくてもオンライン授業等で一緒にできる時代になる可能性もある。それから、ある学年から1つの学校に移行するということは現時点でも可能と思われる。例えば小学校5年生から1つの校舎に全部集めたとしても、これは小学校として残っているので定員を維持したまま、教育は一緒にできる。そうしたことも含め、私の感覚としては今後4～5年の間に小山町独自の教育というものを確立して、保護者からも賛同が得られる形にできればと思う。今年度中に全てそれらを計画立てることはできないが、議論が必要であるというようなことぐらいはこの報告書で出しておいても良いと思う。

岩田委員：繰り返しになるが、町内の特に成美・明倫・足柄は今の現状の厳しさから待ったなしだと思う。地域の伝統を残しつつ、統合する方向へ進めていく。それが分校という形であるのなら教員の数が減ってしまうという課題にぶつかるが、今日の話からすると、教員の数が減ったとしても、学校として機能するのであれば決して悪いことではないと思った。

委員長：他に考えておくべきことに、学校の校舎の問題がある。特に須走地区の学校は設備が充実しているのでそれを生かさない手はない。今ある資源を1回棚卸して、小山町全体で何ができるのかを検討していかなければならない。委員の皆さんには次回までに、何をどう議論していけば一番いい結論にたどり着くのか考えてきてもらいたい。

教育長：1つ伺いたい、成美・明倫・足柄で学区をフリーにしてしまうとうとうなるだろうか。

委員長：することは可能。ですが通常の場合、小さい学校から大きな学校に流れる流れの方が大きくなる。例えば島田市であるとか、いくつかの町で実施しているが、全部合わせて1~2人ぐらいなので決定打にはならないと考える。

教育長：例えば人間関係うまくいかない場合、クラスが1つしかないクラス替えできないので、最終的に他校へということになる。現状、町でも指定校変更制度があるので学校を変えることはできなくはないが、もっとクラス替えの感覚で学校を選択できるようにしたらどうかと考えている。

委員長：学校が同じぐらいの規模であればできると思うが、今の小山町の状況ではやらない方が良くと思う。制度的なところは、わからなければ私のわかる範囲で提供ができるので、今のような発想も広げながら、こんなこともできるんじゃないかってことを次回までにそれぞれに考えてきていただきたい。

山口委員：地域の伝統という点で、足柄地区の太鼓のような地域の伝統を授業の中で扱わざるを得ない状況になっているというか、地域の伝統を学校が担うことになってきている。町では放課後子ども教室という事業があるので、そこでの活動に取り入れても良いと個人的に思う。

委員長：今の話の各地域の伝統（太鼓・金管等）を子供たちに自由に選択してもらい、地域で指導してもらえれば、授業のコマにカウントできるので学校の教育課程を減らせることができる。つまり、学校の多忙化も軽減できるので、それが町全体でできればすごく良いし、学校が将来統合になったとしても、そうした活動は残すことができるのでそういうこともオプションとして考えていく必要があるだろう。では今日はこのあたりにして、今日の意見を持ち帰り、色んな角度で考えた方がアイデ

アが浮かぶと思うので委員の皆様よろしくお願いします。

(イ) こども園・小学校・中学校の今後の方向性について
議事(ア)の中で議論した。

(ウ) その他

議事(ウ)のその他として伊藤学校教育課長が下記の通り説明した。
報告書のアウトラインの(案)であります。

はじめにという形で委員長の武井先生からメッセージをいただき、
委員会の設置の経緯、委員名簿等の公表、教育環境の現状と課題、
アンケート内容・結果、検討委員会の内容について(議事録(抜粋))、
メインとなる町立こども園・小・中学校の今後について、終わりという形で教育長からメッセージをいただいて締める予定です。

委員からの異論は特になし。

(5) 中澤学校教育課長補佐が閉会とした。